

令和 7 年度吉川市男女共同参画 市民意識調査報告 <概要>

1. 実施概要

	時期	対象者数 (人)	回答者数 (人)	回答率	【参考】 前回回答率
市民 意識調査	令和 7 年 1 0 月 6 日 から 1 1 月 4 日	1, 5 0 0	5 7 3	3 8. 1 % (※)	3 3. 9 % (+ 4. 2 %)

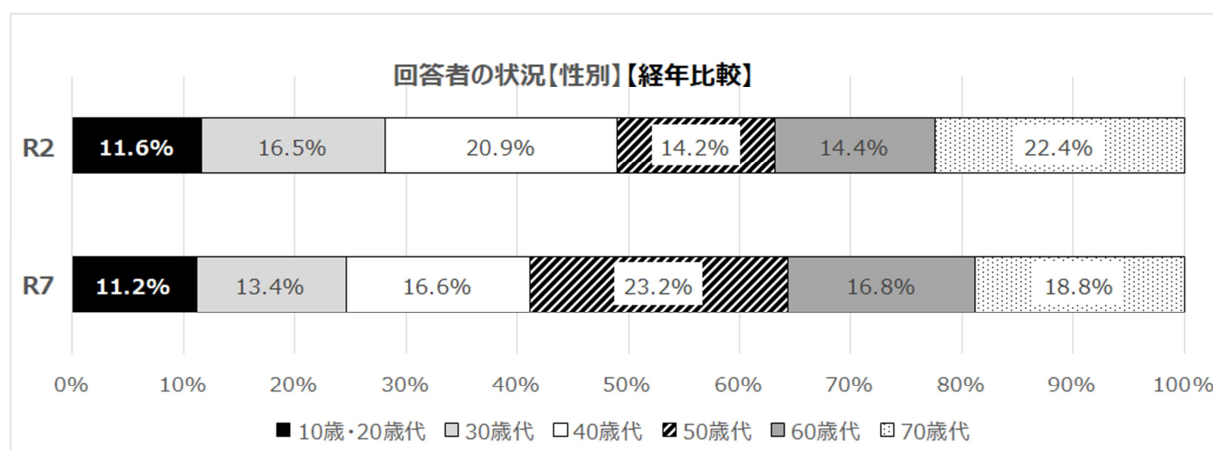
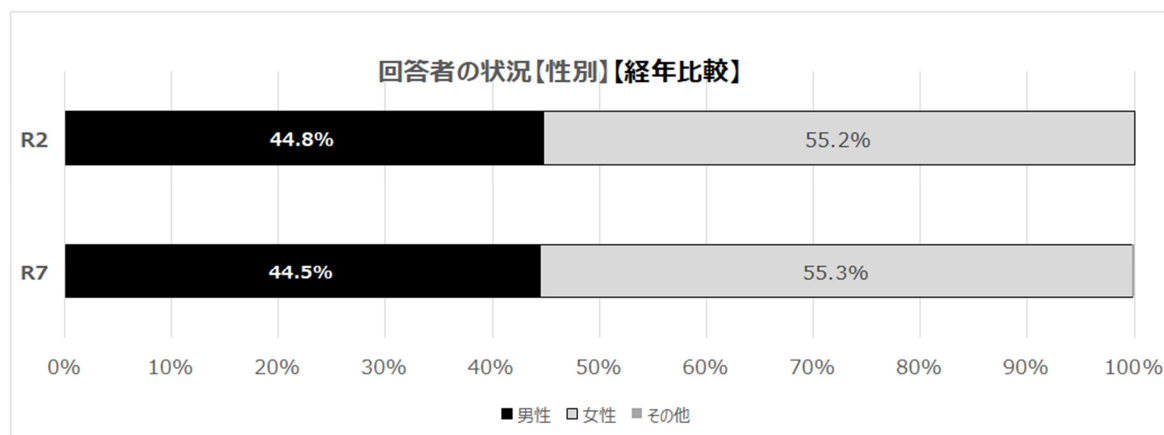
※ 電子申請サービスによるインターネットでの回答が大きく増えた。

【参考】電子回答数 211 件、有効回収数の 36.8%（前回調査は 67 件、13.2%）。

2. 回答者

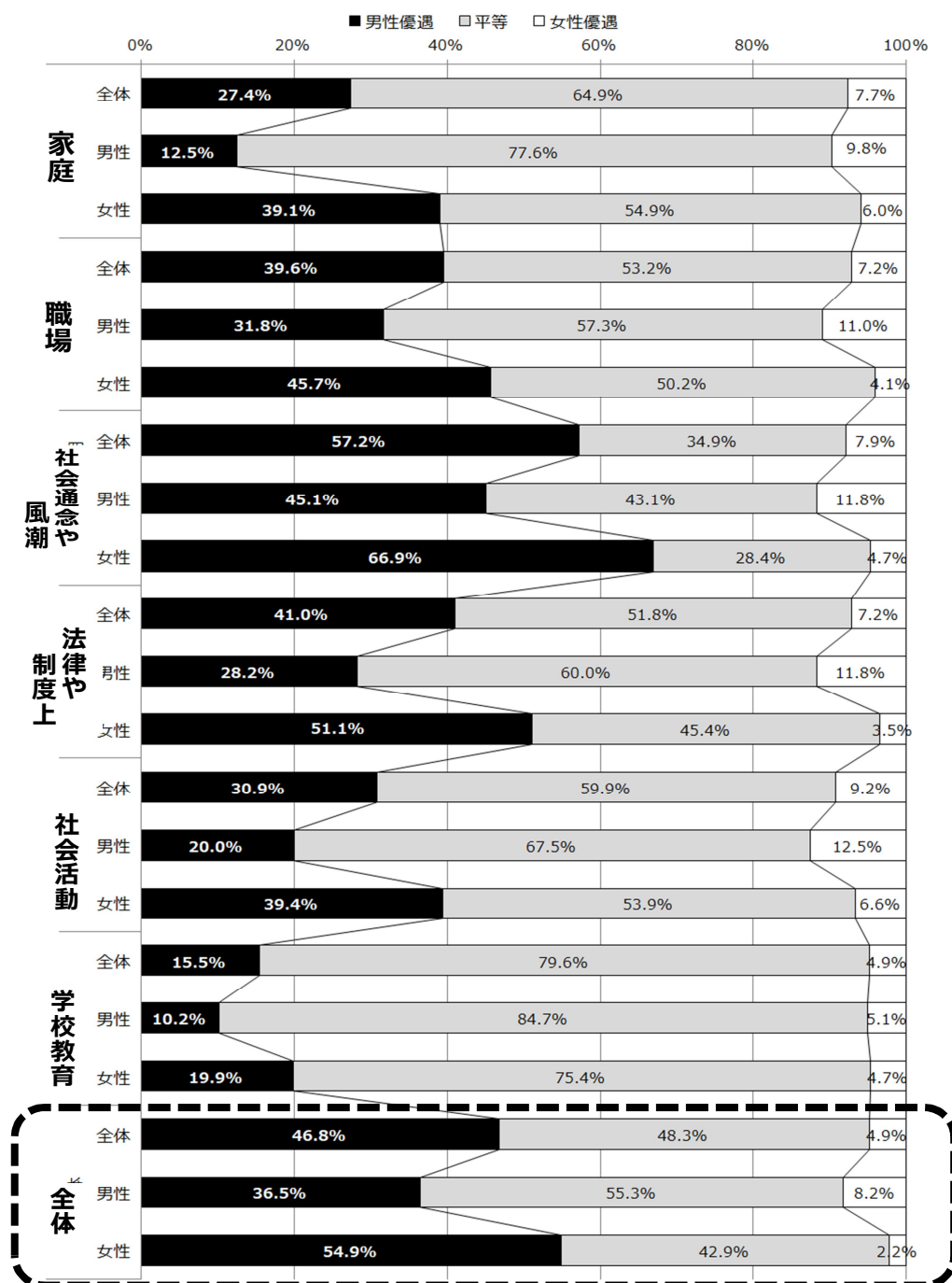
選択項目	人数	構成比
1 男性	255	44.5%
2 女性	317	55.3%
3 その他	1	0.2%
合計	573	100.0%

選択項目	全体		男性		女性		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 18歳～29歳	64	11.2%	21	8.2%	43	13.6%	0	0.0%
2 30歳～39歳	77	13.4%	32	12.5%	45	14.2%	0	0.0%
3 40歳～49歳	95	16.6%	43	16.9%	52	16.4%	0	0.0%
4 50歳～59歳	133	23.2%	62	24.3%	71	22.4%	0	0.0%
5 60歳～69歳	96	16.8%	40	15.7%	56	17.7%	0	0.0%
6 70歳～	108	18.8%	57	22.4%	50	15.8%	1	100.0%
合計	573	100.0%	255	100.0%	317	100.0%	1	100.0%



2. 男女共同参画に関して

(1) 男女の平等意識について (P.8 問1)

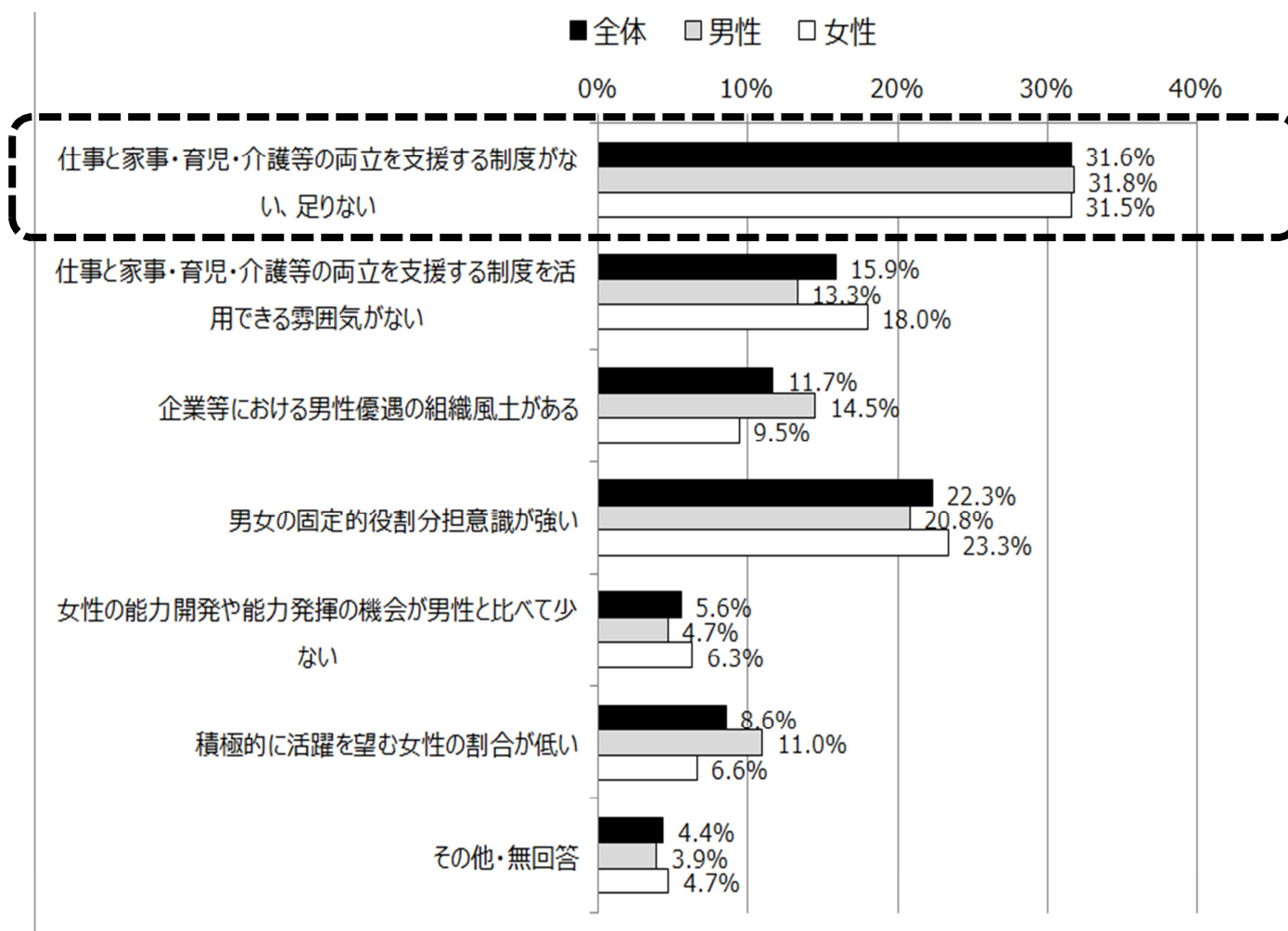


結果

- ・ 全体的な平等感は「男性優遇」(46.8%)と「平等」(48.3%)がほぼ同率であったが、性別で見ると、男性よりも女性の方が「男性優遇」と答えた割合が多い。
- ・ 全体で平等感(「学校教育の場」(79.6%)や「家庭の中で」(64.9%)が高い一方、「社会通念や風潮で」(34.9%)・「全体として」(48.3%)が低い。
- ・ 平等感についての男女間での格差は、「家庭の中で」(22.7ポイント)、「社会通念や風潮」(14.7ポイント)、「法律や制度上」(14.6ポイント)の順に高かった。

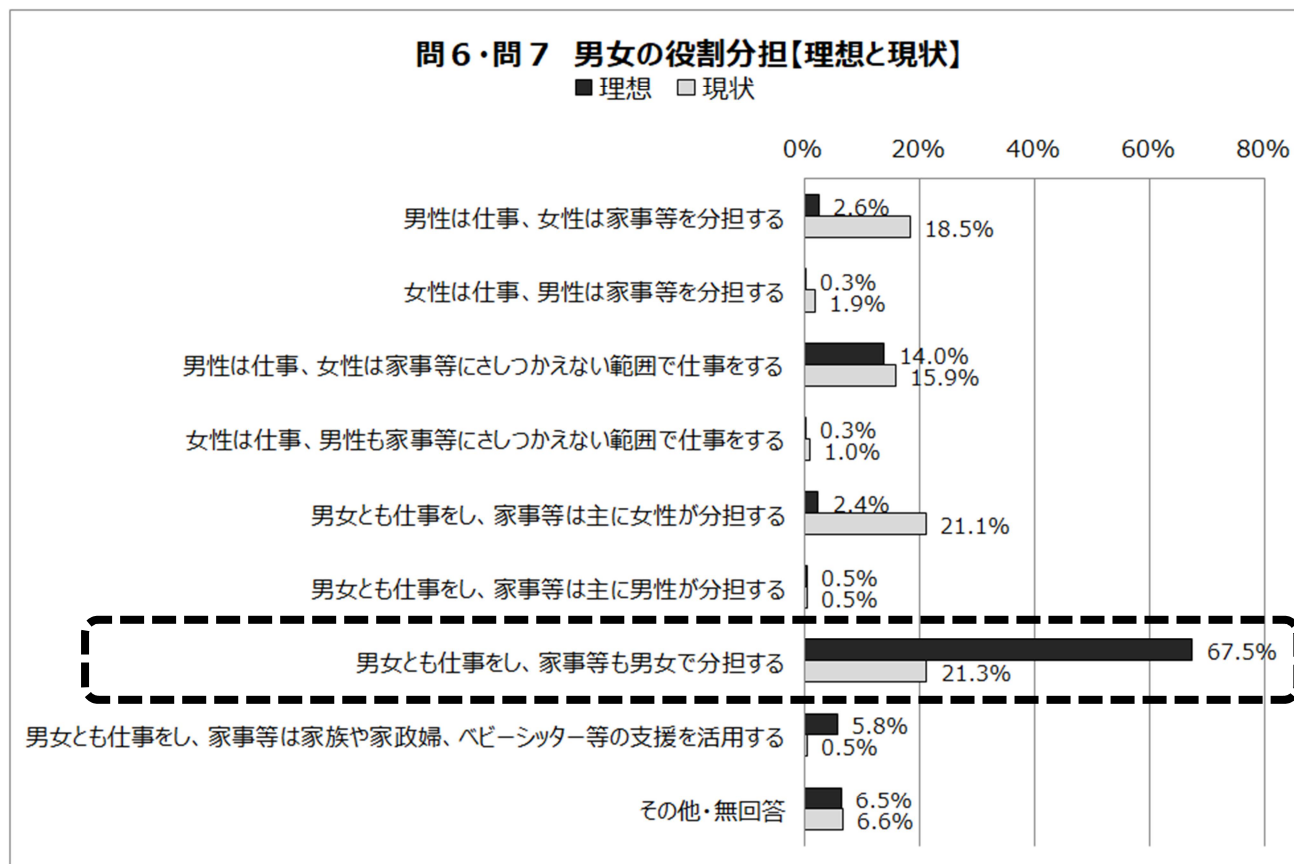
- ・ 過去調査と比較すると、全ての項目において「平等」と回答した方の割合が最も多い。
- ・ 全ての項目において、男性より女性の回答者で「男性優遇」を選んだ方の割合が高い。

（２）日本における女性参画の課題（P. 15 問 2）



結果

- ・ 男女ともに「仕事と家事・育児・介護等の両立を支援する制度がない、足りない」（31.6%）が最も多い。
- ・ 前回調査では「男女の固定的役割分担意識が強い」が最も多かった（30.7%）。

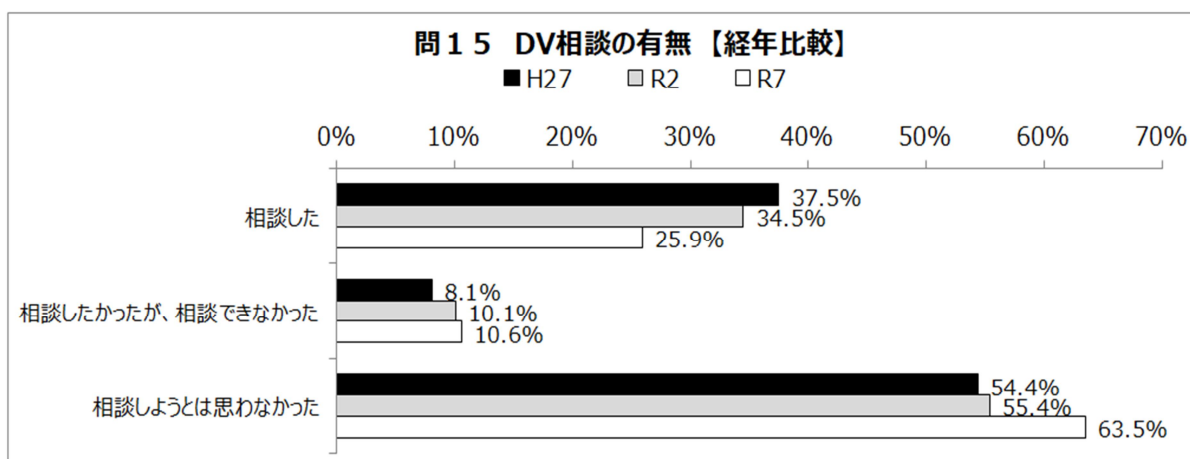
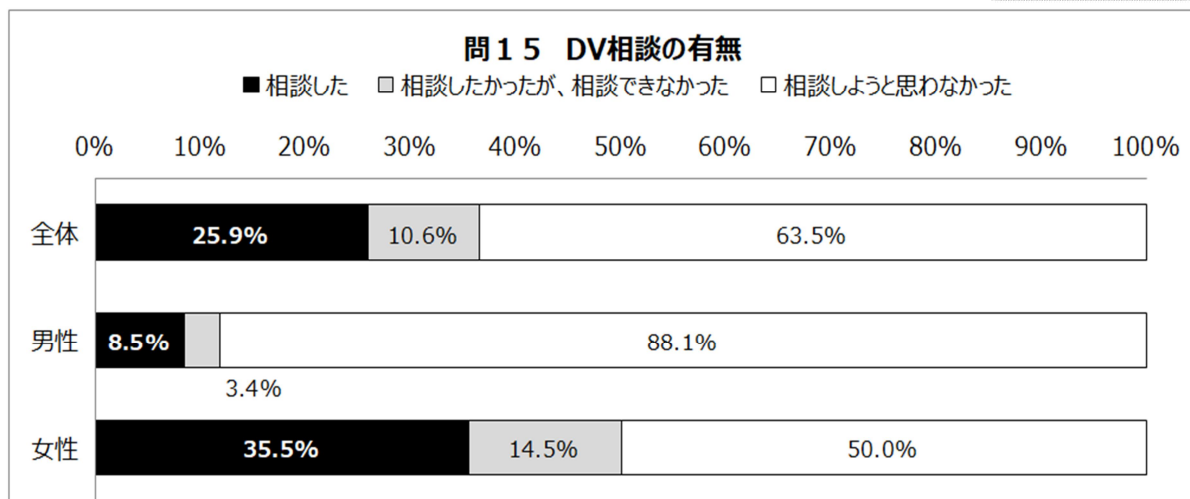


結果

- 理想と現状ともに「男女とも仕事をし、家事等も男女で分担している」の割合が最も高く、理想と現状が一致している。

(4) DVについての相談状況 (P. 62 問 15)

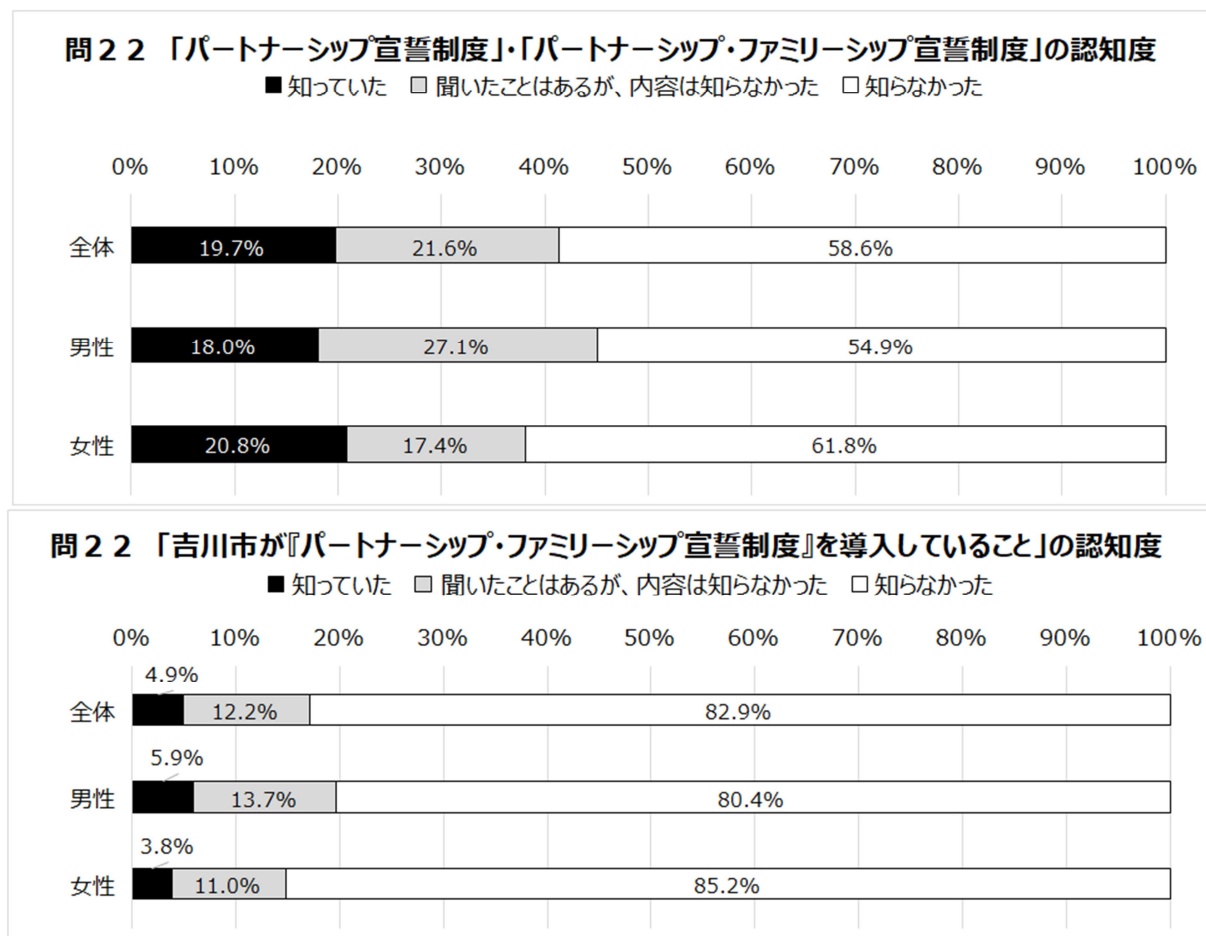
成果指標 3



結果

- ・ DV相談を「しようと思わなかった」方が男女ともに半数を超えており、特に男性(88.1%)で相談をしていない傾向が強い。
- ・ 「相談をしたかったが、相談できなかった」方は全体の10.6%で、特に女性に多い(14.5%)。
- ・ 相談をしなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」(35.1%)が最も多く、男性では44.6%が回答。次いで「相談しても無駄だと思ったから」(20.7%)が続く。

(5) 「パートナーシップ宣誓制度」「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」の認知度 (P. 82 問 22)



結果

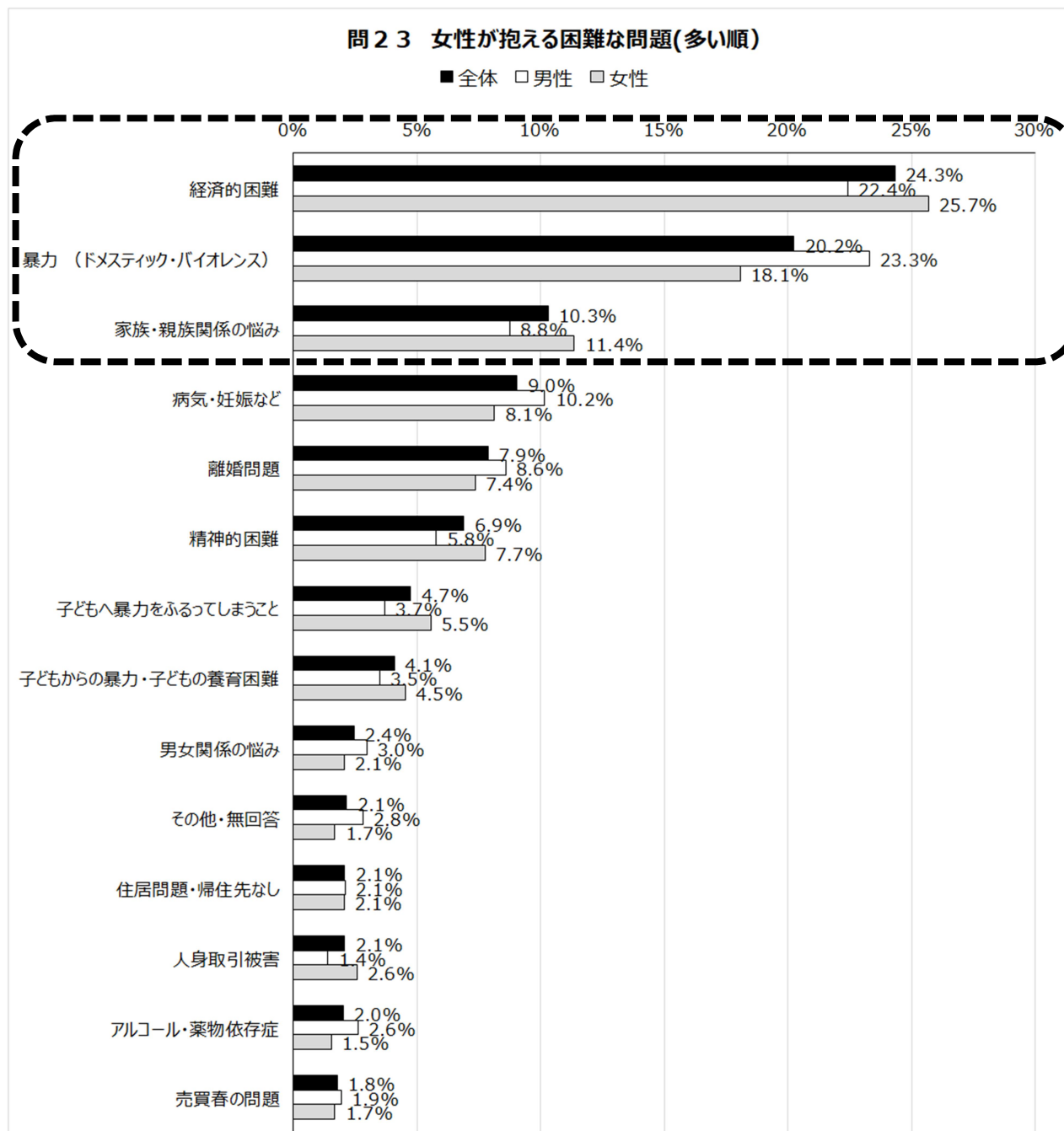
- ・ 制度については、全体で 19.7%が「知っていた」と回答する一方で、「知らなかった」と回答した方が半数を超える (58.6%)。全体的に女性の認知度が低い傾向にある。
- ・ 市がパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入していることについては、「知っていた」と回答した方は全体で 4.9% (男性 5.9%、女性 3.8%) に留まり、約 8 割が「知らなかった」と回答している。

●第 4 次吉川市男女共同参画基本計画」における成果指標の達成状況●

No.	指標名	目標	今回調査	結果
2	市民意識調査において、男女の役割分担について「理想」と「現実」で最も多い選択肢の一致	不一致 (R2) ➡一致 (R12)	一致	達成
3	市民意識調査において、DV 経験者が「相談しなかったが、相談しなかった」と選択した割合	10.1% (R2) ➡5.0% (R12)	10.6% (▲0.5%)	未達成

3. 困難な問題を抱える女性への支援に関して

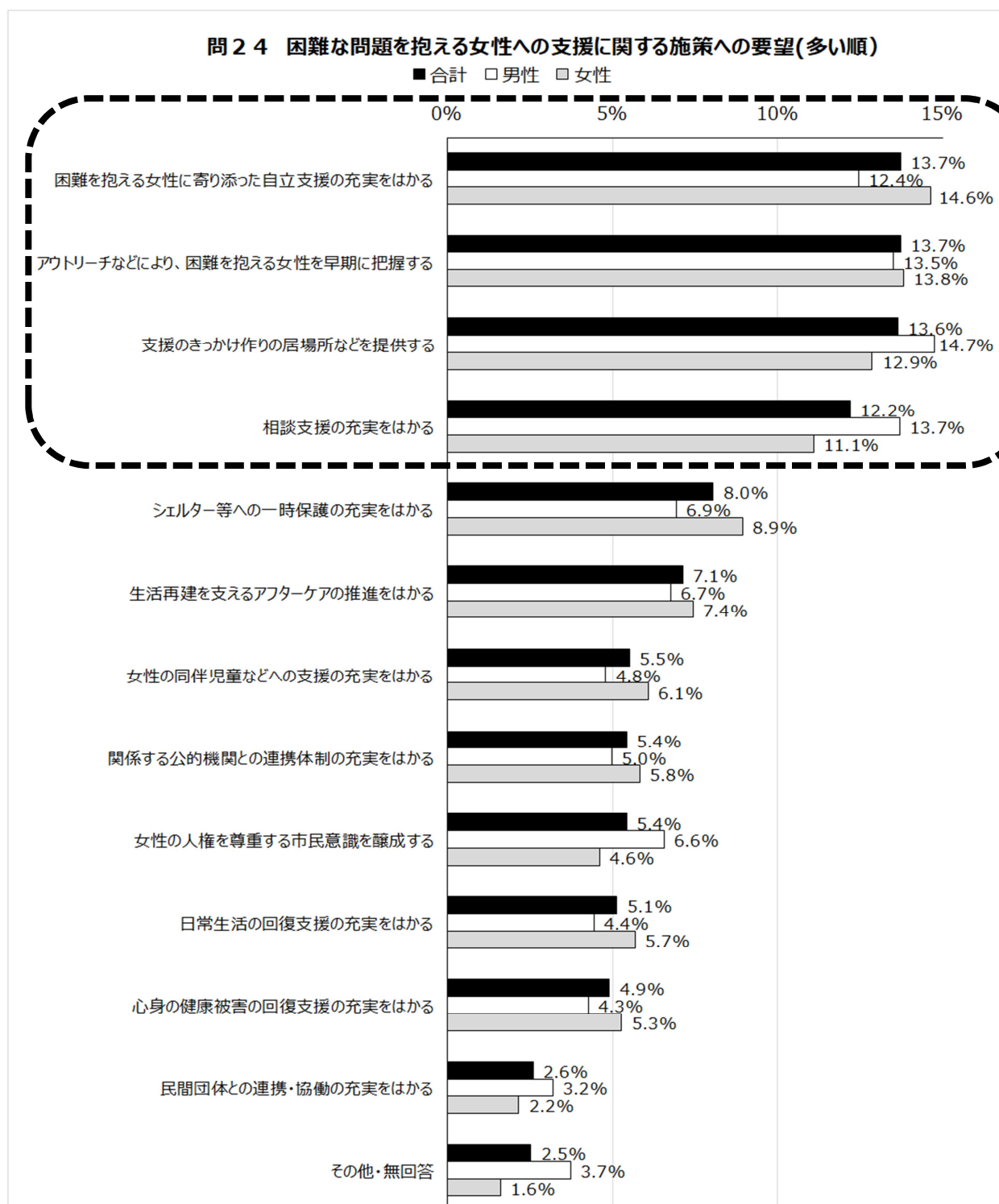
(1) 吉川市内の女性が抱える困難な問題について (P. 84 問 23)



結果

- ・ 全体では「経済的困難」が最も割合が高く、次いで「暴力」、「家族・親族関係の悩み」と続く。
- ・ 性別でみると、順番に多少の入れ替えはあるものの、深刻な問題であると答えた上位項目は一致。また、年代やライフステージにより、困難な問題が変化している。

(2) 施策への要望 (P. 87 問 24)



結果

- ・ 全体では、「自立支援の充実」「アウトリーチによる困難女性の早期把握」「支援のきっかけ作りの居場所提供」が高い。
- ・ 男性では「支援のきっかけ作りの居場所などを提供する」(14.7%)が最も高く、「相談支援の充実をはかる」(13.7%)、「アウトリーチなどにより、困難を抱える女性を早期に把握する」(13.8%)が次いで高い。

握する」(13.5%)が続く。

- ・ 女性では「困難を抱える女性に寄り添った自立支援の充実をはかる」(14.6%)が最も高く、次いで「アウトリーチなどにより、困難を抱える女性を早期に把握する」(13.8%)、「支援のきっかけ作りの居場所などを提供する」(12.9%)が続き、性差による要望の相違が見られる。